

	科目名	時間数	開講年次	担当講師	
専門基礎分野	薬理	70時間	1年前期	赤星 顕正	
科目目標	薬物による生理的变化や、生体に及ぼす影響と薬物の取り扱いについて理解できる。				
授業内容			時間	教育方法	備考
第1編 薬に関する基礎知識			33	講義	
1.薬に関する基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> I 薬と身体 II 薬物の種類と名称 III 薬理作用 IV 薬物体内動態 V 薬物の効果に影響を及ぼす因子 VI 薬に関する法律 VII 調剤と処方箋 2.医薬品の適正な使用に必要な基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> I 使用時に注意すべきこと II 添付文書の読み方 3.神経系・筋に作用する薬物 <ul style="list-style-type: none"> I 神経系に関する基礎知識 II 筋弛緩薬 III 自律神経系作用薬 IV 麻酔薬 V 鎮痛薬 VI 精神・神経機能に作用する薬物 VII 神経変性疾患などに用いられる薬物 VIII 片頭痛・慢性頭痛治療薬 4.代謝系・内分泌系に作用する薬物 <ul style="list-style-type: none"> I 糖尿病治療薬 II 脂質異常症に用いられる薬物 III 高尿酸血症の治療薬 IV 骨・カルシウム代謝薬 V 甲状腺疾患治療薬 VI 性ホルモン製剤 VII そのほかの内分泌系薬物・代謝異常症に用いられる薬物 5.炎症・アレルギー・免疫に作用する薬物 <ul style="list-style-type: none"> I 副腎皮質ホルモン・オータコイドと炎症反応 II 副腎皮質ステロイド薬 III 非ステロイド性抗炎症薬 IV 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 V 免疫抑制薬 VI リウマチ治療薬 VII ワクチン 6.循環器系に作用する薬物 <ul style="list-style-type: none"> I 降圧薬 II 狭心症治療薬 III 抗不整脈薬 					

授業内容	時間	教育方法	備考
IV 心不全治療薬 7. 血液・造血器官に作用する薬物 I 造血薬(抗貧血薬) II 抗血栓薬 III 止血薬 IV 輸液・栄養製剤、ビタミン・血液製剤 8. 呼吸器系に作用する薬物 I 気管支喘息治療薬 II 気管支拡張薬 III 去痰薬・鎮咳薬 IV 呼吸障害改善薬 9. 消化器系に作用する薬物 I 胃・十二指腸潰瘍治療薬 II 消化管運動機能改善薬・制吐薬 III 腸疾患治療薬 IV 下剤(瀉下剤) V 肝・胆道・膵疾患治療薬 10. 泌尿・生殖器系に作用する薬物 I 利尿薬 II そのほかの泌尿・生殖器作用薬 III 子宮収縮薬 11. 抗感染症薬 I 抗感染症薬に関する基礎知識 II 抗菌薬 III 抗真菌薬 IV 抗ウイルス薬 V 抗原虫薬・抗寄生虫薬 12. 消毒薬 I 消毒薬の分類と対象微生物 II 消毒薬の用法 13. 抗悪性腫瘍薬 I 悪性腫瘍と薬物療法 II 細胞障害性抗悪性腫瘍薬 III ホルモン療法薬 IV 分子標的薬(分子標的治療薬) V 免疫療法薬 14. 漢方薬 I 漢方薬における証:虚実と寒熱 II 漢方薬使用上の注意点 III 漢方薬の適応疾患	32	講義	
<u>第2編 薬物療法と看護</u>			
1. 安全な与薬に必要な知識 I 看護職員が特に確認すべき情報 II 与薬時に注意すべき項目 2. 脳神経疾患 I 脳神経疾患看護と薬物 II パーキンソン病 III 認知症 IV てんかん V そのほかの薬剤と副作用 3. 代謝・内分泌疾患 I 代謝・内分泌疾患看護と薬物			

授業内容	時間	教育方法	備考
<ul style="list-style-type: none"> II 糖尿病 III 甲状腺機能亢進症 4. 膠原病・感染症 <ul style="list-style-type: none"> I 膠原病・感染症看護と薬物 II 全身性エリテマトーデス III ヒト免疫不全ウイルス感染症 5. 循環器疾患 <ul style="list-style-type: none"> I 循環器疾患看護と薬物 II 狭心症 III 高血圧症 6. 血液・造血器疾患 <ul style="list-style-type: none"> I 血液・造血器疾患看護と薬物 II 貧血 7. 呼吸器疾患 <ul style="list-style-type: none"> I 呼吸器疾患看護と薬物 II 慢性閉塞性肺疾患 III 気管支喘息 8. 消化器疾患 <ul style="list-style-type: none"> I 消化器疾患看護と薬物 II 胃・十二指腸潰瘍 III 潰瘍性大腸炎 IV 慢性肝炎 9. 腎・泌尿器疾患 <ul style="list-style-type: none"> I 腎・泌尿器疾患看護と薬物 II 慢性腎臓病 III 前立腺肥大症 10. 女性生殖器疾患 <ul style="list-style-type: none"> I 女性生殖器疾患看護と薬物 II 不妊症 III 更年期障害 11. 悪性腫瘍(がん) <ul style="list-style-type: none"> I がん看護と薬物 II 悪性腫瘍(がん) 12. 感覚器疾患 <ul style="list-style-type: none"> I 感覚器疾患看護と薬物 II 皮膚(褥瘡) III そのほかの皮膚疾患 IV 眼科疾患(緑内障・白内障) V 耳鼻咽喉科疾患(メニエール病) VI そのほかの耳鼻咽喉科疾患 <p>付章 事例でみる有害作用への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> A 糖尿病患者のインスリン投与 B 抗がん剤投与時の血管外漏出 C カテコールアミン製剤の持続投与中断 D 睡眠薬・抗凝固薬服用時中の転倒 		講義	
<p><u>第3編 薬物をめぐる医療安全</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 薬物に関連する医療事故 <ul style="list-style-type: none"> I どんな事故が起こっているか II どんな原因で起こっているか III 防ぐためにどうするか 2. 病院内で起こりやすい事故と防止策 <ul style="list-style-type: none"> A 患者への薬剤使用時の事故 			

授業内容	時間	教育方法	備考
B状況別・注意が必要な薬剤 C薬剤の保管方法の誤り 3. 外来・在宅で起こりやすい事故と防止策 A外来・在宅で起こりやすい事故 B外来・在宅での事故防止策 ◎終講試験・解説 ◎集中講義 まとめ 2年次	2 3(1)	講義	1時間は専任教員
テキスト 看護学入門2 薬理 (メヂカルフレンド社)			
評価方法 終講試験、授業態度、課題提出状況			